



↑7月1日、東保育園で「たなばたのつどい」がありました。この催しには、同園の園児や保護者、保育士が参加。たくさんの短冊で彩られたステージで園児がダンスを楽しんだり、保育士が七夕の劇を披露したり、親子そろってゲームをしたり、ひこ星とおり姫にあやかって、親子が触れ合う楽しい一日となりました。

七夕 [たなばた]

七夕は年に一度、おり姫星（こと座のベガ）と、ひこ星（わし座のアルタイル）が天の川をわたってデートすることを許された特別な日とされています。

七夕の物語は中国の後漢のころ（1～3世紀）に作られたとされています。日本に入ってきたのは奈良時代で、『日本書紀』によれば持統天皇の5年（691年）に宮廷で七夕の宴が催されたのが、七夕まつりの始まりとのこと。

短冊に願いごとを書いて、おり姫星・ひこ星に想いはせながら空を見上げる、こうしたロマンチックな気分にあふれる「七夕」。7月7日の夜、天に流れる天の川の岸边を見つめて… おり姫とひこ星に何を願いましたか？

